全国個性化教育研究連盟

# 全個教連会報

第74号 最終号

発 行

平成 18 年 2 月 1 8 日 発行責任者 加 藤 幸 次

# 個性化教育の更なる発展に向かって (誓い)

上智大学名誉教授 加藤 幸次

ネット化時代となり、この形でのニュースレターはこれで最後ということになりました。25年近くにわたり、年に4回も、ニュースレターを発行し続けてきたエネルギーに、改めて感謝いたします。歴代広報部のみなさん、ありがとうございました。会誌とともに、会員を結びつけるのに大きな役割を果たしてきた、と確信しています。

ご承知のように、昨年 10 月、中教審の 答申『新しい時代の義務教育を創る』が公 表されました。"新しい時代"や"創る" という表現からも推察されるように、今ま での義務教育を"変える"あるいは"変え るのだ"という強い意図が読み取れます。 しかし、その意図するところは制度改革に あったようにみえます。すなわち、義務教 育費国庫負担制度の維持に最大の関心があ ったことは周知のところです。地方分権化 の流れの中にあって、地方教育委員会によ り権限を移すこと、また、民営化の流れの 中にあって、学校に地域社会を取り込むこ とを目指したコミュニティ・スクールを創 ることに、力点がおかれていたといってい いでしょう。これまたご承知のように、私 たちの大きな関心事である学校の教育課程 については、目下、教育課程部会で審議さ れているのです。2月13日が、その最終 審議の日ではなかったかと思います。

早速、そのときのたたき台になった資料をいただき、ざーと目を通してみました。 もちろん、"新しい"という要素を探して です。まだ、最終調整がなされると思いま すが、大きくは変わらないでしょう。

例の"生きる力"という表現ですが、 "人間力"という表現も使われていますが、 "同じ趣旨である"と、言い切っています。 もちろん、学力低下について、中山前文科 相の顔を立ててか、文科省や委員の中の学 力低下派の圧力を受けてか、随所にそれら しき表現がみられます。もっとも、学力低 下を強調しないことには、実は"確かな学 カ"という自分たちの主張が述べられない ことを「よく心得ている」ともいえるので す。その結果、"習得型の教育"が必要な 「読み、書き、計算」が当然のごとく引き 出されてきています。しかし同時に、"探 究型の教育"が必要な「自ら学び自ら考え る力」の育成にも触れているのです。私た ちの関心事である『個性』という言葉も、 幸いにも、多少残るようです。 昭和 22 年 の『新教育の指針』以来、日本の教育の基 本理念です。この言葉を消し去るときは日 本の教育の死滅です。

繰り返し、繰り返し強調してきたことですが、私たちのこの会は『体制内改革派』です。体制の外にはいないのです。といって、保守あるいは旧守派ではないのです。子供たちを目の前にし、教え育む私たちは、個性化教育の理念にのっとり、果敢に学校を、授業を改革していくべきだと、考えています。時代は転換期にあります。みんなで力を合わせて、がんばりぬきたいと思います。

### 箱根宿泊研修会

「今日の学力低下論を切る!!-見える学力と見えない学力を考え る-」

【期日】平成17年12月25日(日) 12月26日(月)

【会場】神奈川県箱根湯本ホテル 【25日】

- ◎開会行事
- ◎基調座談会 「中教審答申を考察する」 上智大学名誉教授 加藤 幸次先生 東京学芸大学教授 浅沼 茂 先生 上智大学教授 奈須 正裕先生
- ◎フリートーク(基調座談会を受けて)【26日】
- ◎事務局会
- ◎英語教育について

上智大学名誉教授 加藤 幸次先生

◎閉会行事

## ◎基調座談会 「中教審答申を考察する」

昨秋に出された、中教審答申を受けて、3人のパネラーの先生方が、それをどう読み解くかというテーマで、独自の切り口で論を展開された。

#### 奈須先生



という形で出された。今後、これを基に、中央 教育審議会の議論と平行して、学習指導要領の 改訂作業に入るものと思われる)。現在まで、 時数に関する議論は行われておらず、もっぱら 理念に関する協議のみが行われており、まだま だ予断を許さない。我々としては、重大な感心 を持って動向を見守っていきたい。

#### 浅沼先生

文部科学では 本部出通達がでする をは をでするに でするに でするに でするに でするに でするに でするに でする。 です。 でする。 です。 でする。 



語・読解についてはPISAの調査では下がっ

た。それを受けて、フィンランドメソッドがは やっている。そして、フィンランド国語教科書 の一部を引き合いにしながら、フィンランド国 語教科書が、発想力や論理力、表現力、批判的 思考力(クリティカルシンキング)コミュニケ ーション力を育てると話された

#### 加藤先生



的学力については議論が煮詰まっていない。 イギリスは、国家が Plan と See を担い、教 育課程の効果をテストで測定する一方,中間の

Do を地方が行う方式をとっている。

今回の答申を見てみると、かつてデューイが 批判した、目的と手段の分離が感じられる。また、新しい義務教育を創造するとはいったいらのようなことなのか?答申を見る限り、グローバリズムや国民国家論、国際化の思想、環境問題等の視点はない。戦う国家論、世界の荒波の中で戦っていく国家論といえる。知識・技能が関心意欲より上にあり、元に戻った印象を受ける点も気になる。

もし、学力低下論が起こっていなかったら、 教科の再編になるのではなかったか?私なら 21世紀は、環境科や国際科等といった具合に、 教科の立て方を変えようとするだろう。英語教 育については、財政のこともあるが、外国人任 せで根無し草の印象を受けた。



フリートーク

前半の3人の講師の先生の基調講演を踏まえて、フロアも含めたフリートークになった。 ニート・フリーターの問題を引き合いにし、 資源のない我が国は~とあるのは、国民国家論 になっている。国家戦略のビジョンが見えてこない。夢があるのか。どういう能力を育てるのか。といったところから、学習指導要領の見直しの視点がやや散漫な感じが否めないとの意見が出された。

また、人間力という概念はそもそもが雇用問題から発したという経緯もあり、やや限定的ではないか。むしろ、現行の生きる力の方が包括的なのではないか。その意味で、知識観や学力観にも一貫性を欠く印象もあり、本研究会としては、過去の経緯もふまえた創造的な解釈をして、実践を積んでいくことが重要ではないかとの意見も出た。



また、文面からは、平成10年の指導要領路線を基本的に容認しながらも、この間のさまざまな批判に対応すべく、論が展開されていると読める部分もあるのではないか。また、ニート等の多分に経済や政治が関わる複合的な問題が、心の問題や教育問題にすり替えられる危険性はないか。といったコメントもなされた。

また、この改訂のエネルギーはどこから来ているのか?もしかすると、「行き過ぎ後戻りモデル」なのではないか。しかし、それではビジョンがないのであって、それを「新しい」と言ってもらっては困る。日本の教育界は、ビジョン作りが下手ではないのか?それをやらないと頼るところは「後戻り」しかない。先に進めない。

最後に、今後はスクールベースドになり、どういう学校を作るかというデザインをみんなでやる時代になっていくであろう。昔は戦う相手が明確になっていたが、今は無関心な人たちをどうしていくかが課題である、と言う言葉で締めくくられた。

#### ◎英語教育について

上智大学名誉教授 加藤 幸次先生 「我々の英語でやろう」昨今の英語熱を踏ま えて加藤先生が発せられた言葉である。

せっかく総合を入れたのに、韓国は週3時間の総合の2時間を情報・英語に費やし、残りの時間は総合をやらなくなった。総合の史証を入れられないか(歌を歌いながら英語をやる等)「我々の日本人英語でいい」と加藤先生は強調される。別の国の言葉を話すことは、自分の見方を変え、自信にもつながる。もう一つの自分の表現方法を身につけることは、自分の解放であると言われた。

フロアからは、英語の必然性はどこに?なぜ 英語なのかと言うことが問われていないと関うことが問われていないと関うことが問われていないと関うで、 カーションツールであり、 変囲気としての英語に に対して、 を低くするはたらきに期待する、と言った意見 を低くするはたらきに期待するとしての を低くするはたらきに期待するとしての をしての をしての

# 研究発表

## 東京都台東区台東小学校

台東小の教育プラン〜本校が目指す新の学力 「豊かに学び、確かな力を身に付ける情報の活 用」-問題解決能力を育てる情報及びITの有 効活用

平成17年10月27日(木)



情報及びITの有効活用とサブテーマにあるが、決してパソコンを使った授業を展開しているわけではない。それどころか、当日パソコンはほとんど使われなかった。

講師の加藤幸次先生が講演で語ったように、「この時期に、このような、問題解決を軸に、真の学力を中心とした、骨太の研究発表会をされたことに敬意を表します。」と述べられたが、正に、真の学力・問題解決力に真っ向から取り

組んだ研究であった。

3つの柱、「問題解決学習の展開」「ITを 活用した授業」「一人一人を伸ばす個別指導計 画」を、丁寧に展開しているのが印象的であっ た。

授業公開も、5校時だけでなく、6校時まで 計画し、参観しやすいように配慮されていた。 参加者が少なかったのが残念であった。

(文責 佐久間)

愛知県東浦町立片葩小学校

『自他の価値を尊重した学校生活の創造』~ 人権を手がかりとした学校づくりをめざして 平成17年11月22日

パネリスト 加藤幸次先生・魚住忠久先生・浅 沼茂先生・佐野亮子先生・久野弘幸先生



成田幸夫校長先生の巻頭言から「私たちは人権教育研究指定校をきっかけに<u>「学校づくり」</u>という視点でささやかな実践を継続しています。「地域の未来を開き、心豊かで充実した生活を約束する本物の学力」を願い「自分の可能性を信じ自分の学び方や生き方を考えさせてくれる学校づくり」をめざしたいと本気で考えるからです。」

この方針は具体的には、①生活科・総合学習の全面的な見直しと、いのち・人権領域を重視した実践 ②体験活動を活用した自作資料による道徳の時間の実践的研究③自ら判断し行動する学習力をめざした教科学習のパッケージ開発と一人学びの実践 ④共に生きる学びや生活

〈事務局への問い合わせ・連絡先〉 〒 115-0031 東京都台東区千東 4-29-5-1005 tel/fax03-3871-8789 庶務部長 高瀬雄二 e-mail yujitaro@yahoo.co.jp 全個連ホームページ

http://www.ns-da.com/aaa/zenkoren/index.html



づくりのための学習環境のリニューアル (ブース毎に色分けされている教室・子どものアイデアからなるトイレ全面の絵・子どもたちに語りかけているさりげない掲示・あらゆる空間にある学習スペース・子どもたち一人一人の顔が浮かぶ体育館の研究経過の作品群他)として実践化されている。

どれをとってもそこには子どもの思いを大切にして、教師共々育っていこうという、学校づくり本来の熱い思いが伝わってきた。両腕を失った青年との交流では、子どもたちの率直な質問に臆することなく青年が答えていた。個別学習では、黙々と課題に取り組んでいた。どちらも、「自他の価値を尊重する」という意味では人権教育なのだ、ということに改めて気づかされた。

かつて、学校訪問を重ねていた頃の感動が久々にあった。その感動を、どう自分の中で発展させていくのか、あの質問していた子どもたちの姿に近づけていきたい。(文責 加藤久美子)

## 会報休刊にあたって 事務局長 奈須正裕

昨年夏の理事会決定に従い、今号で会報を休刊とします。速報性や情報量における紙媒体の限界、かさむ郵送費等がその理由です。今後、広報機能はネット上へと移行し、懸案だったHPの充実等、デジタル化の推進に力を注ぐことで、会員相互の交流のさらなる活性化をはかっていく所存です。ご期待ください。

全国個性化教育研究連盟 第74号 平成18年2月18日発行

編集責任者 事務局長 奈須 正裕 編集 広報部 中田 泰志